

2024年度 第57回細胞検査士資格認定試験学科筆記試験

総論

- ヘルペスウイルスの型と関連疾患の組み合わせで誤っているものはどれですか。
 - 1型 —— 口腔感染症
 - 3型 —— バーキットリンパ腫
 - 4型 —— 帯状疱疹
 - 5型 —— サイトメガロウイルス感染症
 - 8型 —— カポジ肉腫
 - A. B
 - A. E
 - B. C
 - C. D
 - D. E
- 尿路系腫瘍の発がん化学物質として誤っているものはどれですか。
 - アスベスト
 - 重クロム酸
 - ベンジジン
 - β -ナフチルアミン
 - 4-アミノジフェニル
 - A. B
 - A. E
 - B. C
 - C. D
 - D. E
- DNAの複製が行われる細胞周期として正しいものはどれですか。
 - G0期
 - G1期
 - G2期
 - M期
 - S期
- 内胚葉由来の臓器として正しいものはどれですか。
 - 胃
 - 骨
 - 脳
 - 心臓
 - 腎臓
- 診断に用いられる抗体と腫瘍の組み合わせで正しいものはどれですか。
 - Calretinin —— 悪性黒色腫
 - GATA3 —— 腎細胞癌
 - PAX8 —— 尿路上皮癌
 - S-100 タンパク —— 中皮腫
 - TTF-1 —— 甲状腺癌
- 以下の病変の中で腫瘍はどれですか。
 - 黄色腫
 - がま腫
 - 肉芽腫
 - 真珠腫
 - 乳頭腫
- 偽痛風でみられる結晶成分として正しいものはどれですか。
 - シスチン
 - 尿酸ナトリウム
 - シュウ酸カルシウム
 - リン酸マグネシウム
 - ピロリン酸カルシウム
- RNAウイルスとして正しいものはどれですか。
 - 痘瘡ウイルス
 - B型肝炎ウイルス
 - ワクシニアウイルス
 - 単純ヘルペスウイルス
 - インフルエンザウイルス
- HE染色標本で好塩基性を示すものはどれですか。
 - 銅
 - 胆汁
 - 石灰化
 - フィブリン
 - ヘモジデリン

10. 成人に好発する腫瘍として正しいものはどれですか。
1. 肝芽腫
 2. 髄芽腫
 3. 膠芽腫
 4. 網膜芽細胞腫
 5. 神経芽細胞腫
11. 次の細胞骨格のうち中間径フィラメントとして誤っているものはどれですか。
1. アクチン
 2. ケラチン
 3. デスミン
 4. ビメンチン
 5. ニューロフィラメント
12. アポトーシスとして誤っているものはどれですか。
1. 核濃縮
 2. 核崩壊
 3. 核融解
 4. 集団細胞死
 5. 細胞質の縮小
13. がんリスク因子の組み合わせで誤っているものはどれですか。
1. 慢性肝炎 ————— 肝細胞癌
 2. 日光角化症 ————— 皮膚癌
 3. 慢性甲状腺炎 ————— 甲状腺髄様癌
 4. 逆流性食道炎 ————— 胃食道接合部腺癌
 5. *Helicobacter pylori* 感染 ———— 胃癌
14. 遺伝子異常形式と遺伝子の組み合わせで誤っているものはどれですか。
1. 点突然変異 ———— *RB*
 2. 融合遺伝子 ———— *ALK*
 3. 融合遺伝子 ———— *c-myc*
 4. 遺伝子増幅 ———— *HER2*
 5. 遺伝子増幅 ———— *BRAF*
15. 壊死と疾患の組み合わせで誤っているものはどれですか。
1. 乾酪壊死 ————— 結核
 2. 凝固壊死 ————— 心筋梗塞
 3. 脂肪壊死 ————— 急性膵炎
 4. 融解壊死 ————— 梅毒
 5. 類線維素壊死 ———— 結節性多発動脈炎
16. 免疫組織化学で用いられる抗体と陽性部位の組み合わせで正しいものはどれですか。2つ選んでください。
1. CD20 ————— 細胞膜
 2. Chromogranin A ———— 細胞質
 3. Estrogen receptor ———— 細胞質
 4. HMB-45 ————— 細胞膜
 5. HER2 ————— 核
17. 線毛を有する細胞として正しいものはどれですか。2つ選んでください。
1. 胆管上皮
 2. 乳管上皮
 3. 精管上皮
 4. 気管支上皮
 5. 尿細管上皮
18. 小体と疾患の組み合わせで正しいものはどれですか。2つ選んでください。
1. Dutcher 小体 ———— 卵黄囊腫瘍
 2. Lewy 小体 ————— サルコイドーシス
 3. Mallory 小体 ———— アルコール性肝炎
 4. Mulberry 小体 ———— Fabry 病
 5. Schaumann 小体 ———— 形質細胞腫
19. 腫瘍と原因遺伝子の組み合わせで正しいものはどれですか。2つ選んでください。
1. 乳癌 ————— *BRCA*
 2. 大腸癌 ————— *MLH1*
 3. 腎芽腫 ————— *NF1*
 4. 甲状腺髄様癌 ———— *DPC4*
 5. 神経線維腫症 ———— *WT1*

20. 次のうち染色体異常症として正しいものはどれですか。2つ選んでください。

1. クッシング症候群
2. ダンピング症候群
3. クラインフェルター症候群
4. シェーグレン症候群
5. ターナー症候群

技術

21. 検体処理法に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。

- A. サイトスピン法は細胞数が多い検体に適している。
- B. 引きガラス法では、大型細胞は引き始めに集まりやすい。
- C. 遠心沈殿法では、赤血球層下部のバッフィーコートを採取する。
- D. 直接塗抹法では、採取器具による細胞所見の違いがみられる。
- E. 液状化検体細胞診 (LBC 法) 保存液は婦人科領域以外の検体にも使用できる。

1. A. B
2. A. E
3. B. C
4. C. D
5. D. E

22. 検体処理法に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。

- A. 喀痰は血痰部周辺を避けて作製する。
- B. 脳腫瘍の細胞標本はすり合わせ法が有用である。
- C. 唾液検体は細胞変性を避けるために室温で保存する。
- D. 高粘稠性の検体は引きガラス法で、引きガラスの角度を低くする。
- E. 穿刺吸引検体は一般に腫瘤中心部を避けて穿刺した方がよい。

1. A. B
2. A. E
3. B. C
4. C. D
5. D. E

23. 液状化検体細胞診 (LBC 法) に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。

- A. 綿棒採取も可能であり、細胞が十分に回収できる。
- B. スクリーニングや診断の質を向上させる。
- C. Human papillomavirus (HPV) の遺伝子検査に利用できる。
- D. 乾燥による不適正標本を防ぐことができる。
- E. 原理は沈降法である。

1. A. B
2. A. E
3. B. C
4. C. D
5. D. E

24. 標本作製法に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。

- A. サコマノ液には 50% エタノールが含まれる。
- B. 溶血剤に用いられる 0.9% 塩化アンモニウムは細胞変性が大きい。
- C. 漏出液は室温に 24 時間放置しても細胞変性は軽度である。
- D. 酢酸水は溶血作用もある。
- E. 尿細胞診検査には早朝尿より随時尿が適している。

1. A. B
2. A. E
3. B. C
4. C. D
5. D. E

25. Papanicolaou 染色に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。

- A. ギル・ヘマトキシリン染色液の防腐剤はグリセリンである。
- B. 塩基性色素は負に荷電し、正に荷電する細胞質と結合する。
- C. 固定前に乾燥した標本は染色性が赤みを帯びる。
- D. 染色液は使用前に濾過しコンタミネーションを防止する。
- E. 固定前の乾燥によって核クロマチンの不明瞭化が起こる。

1. A. B
2. A. E
3. B. C
4. C. D
5. D. E

26. Papanicolaou 染色に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。

- A. 染色液色素は分子量が小さい順にエオジン、オレンジ G、ライトグリーンである。
- B. ユークロマチンはヘマトキシリンに濃染する。
- C. リンタングステン酸は EA-50 に含まれる。
- D. 塩基性色素はアルコールに溶けやすく、水に溶けにくい性質を有する。
- E. 核の色出しに弱アルカリ溶液を用いると細胞剥離のリスクが伴う。

1. A. B
2. A. E
3. B. C
4. C. D
5. D. E

27. PAS 反応に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。

- A. 過ヨウ素酸水溶液は繰り返し使用可能である。
- B. シップ試薬は染色直前に冷所から取り出し速やかに反応させる。
- C. シップ試薬後の亜硫酸水による洗浄を省くと偽陰性の原因となる。
- D. 酵母様真菌が陽性となる。
- E. 核染色を薄めにするると陽性部位が確認し易い。

1. A. B
2. A. E
3. B. C
4. C. D
5. D. E

28. 免疫組織化学で用いられる抗体と腫瘍およびその陽性部位の組み合わせとして誤っているものはどれですか。

- A. BAP1 _____ 中皮腫 _____ 細胞質の発現消失
- B. INSM1 _____ 神経内分泌腫瘍 _____ 核
- C. p16^{INK4a} _____ HSIL _____ 核および細胞質
- D. CD117(c-kit) _____ GIST _____ 細胞質および膜
- E. Melan A _____ 悪性黒色腫 _____ 細胞膜

1. A. B
2. A. E
3. B. C
4. C. D
5. D. E

29. 作業環境に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。

- A. 作業環境測定は 1 年に 1 回行う必要がある。
- B. 作業環境測定は作業環境測定士が行わなければならない。
- C. キシレンの管理濃度は 50 ppm である。
- D. ホルマリンの作業記録は 30 年間保存しなければならない。
- E. キシレンの作業記録は 5 年間保存しなければならない。

1. A. B
2. A. E
3. B. C
4. C. D
5. D. E

30. 細胞診の精度管理に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。
- A. 臨床診断や組織診断との対比は内部精度管理の一部である。
 - B. 症例検討会実施の目的は診断能力の維持および向上である。
 - C. 細胞検査士の1日の検鏡枚数は90枚を上限とする。
 - D. 疑陽性例はダブルチェックしていれば細胞検査士のみで報告する。
 - E. 陰性例の20%以上は報告前に他の有資格者による再鏡検を行わなければならない。
31. 固定不良の際に起こりうる核変化に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。
1. クロマチンが凝集し不明瞭になる。
 2. クロマチンが消失し核が透明になる。
 3. クロマチンが核膜に集まる。
 4. クロマチンが核外に漏出する。
 5. クロマチンに変化はみられない。
32. 光学顕微鏡に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。
1. 顕微鏡で拡大されて見える範囲は接眼レンズの視野径の直径で決まる。
 2. 開口絞りを絞るとコントラストが増す。
 3. 焦点深度は開口数と総合倍率に比例する。
 4. アクロマートレンズは赤・青の色収差と球面収差を補正する。
 5. 対物レンズのカラーリングコードはJIS規格で40倍が青色と規定されている。
33. Papanicolaou 染色に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。
1. ヘマトキシリンは無色あるいは白色である。
 2. 核の分別は過剰な染料を除去する作業である。
 3. 塩基性色素としてヘマトキシリンとビスマルクブラウンが用いられる。
 4. 色素分子の大きさと細胞骨格タンパクの疎密が染色性に関与している。
 5. オレンジGの染色強度はpH値に依存しない。
34. Giemsa 染色に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。
1. 乾燥標本を用いる。
 2. 固定液は使用しない。
 3. 塗抹細胞はPapanicolaou染色に比べて大きくみえる。
 4. スライドガラスからの細胞剥離が少ない。
 5. pH 6.4のリン酸緩衝液を希釈に使用する。
35. 次のうち誤っている記述はどれですか。
1. リンパ節の捺印細胞は挫滅による核線が生じやすい。
 2. Giemsa染色では、塗抹ガラスを自然乾燥すると核の濃染傾向が生じる。
 3. Giemsa染色では、重積した細胞集塊の観察に適している。
 4. Papanicolaou染色では、塗抹細胞量が少ないと乾燥が生じやすい。
 5. Shorr染色は迅速細胞診に用いられる。
36. 光学顕微鏡に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。2つ選んでください。
1. 顕微鏡の総合倍率は対物レンズの倍率で示される。
 2. 収差とは得られる像に歪みやボケ、色がにじんだりする現象である。
 3. 近接した2点の識別能を分解能とよぶ。
 4. 開口数が大きいほど分解能は低くなる。
 5. 開口絞りは対物レンズの開口数の30~40%となるように調整するとよい。
37. Alcian blue 染色に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。2つ選んでください。
1. 酸性色素である。
 2. 分子内に銅を含む。
 3. pH 1.0では、ヒアルロン酸が染色される。
 4. pH 2.5では、コンドロイチン硫酸は染色されない。
 5. pH 2.5では、セルブロック（アルギン酸法）で背景が染色される。
38. 免疫細胞化学に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。2つ選んでください。
1. ポリマー法はLSAB（標識ストレプトアビジン）法よりも感度が低い。
 2. エタノール固定標本における抗原賦活化としては、蛋白分解酵素処理が推奨される。
 3. 核内抗原の検出には、熱処理による抗原賦活化が有効である。
 4. 賦活化とは、酵素や熱処理により非特異的反応を防止することである。
 5. 非特異的反応の阻止には、二次抗体と同一動物種の正常血清が用いられる。
39. 免疫細胞化学に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。2つ選んでください。
1. ホルマリンによる後固定を行う。
 2. Papanicolaou染色後でも実施可能である。
 3. コーティングスライドガラスを用いると非特異的反応が起こりやすい。
 4. 非特異的反応を防ぐため、乾燥は禁忌である。
 5. 内因性ペルオキシダーゼ活性阻止のため、アビジン溶液を用いる。

40. Whole slide imaging(いわゆるパーチャルスライド)に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。2つ選んでください。
1. 染色性の経時劣化がない。
 2. 細胞標本のデジタル画像化には、Z軸方向の撮影は必要でない。
 3. 取り込んだ画像データは各社互換性がある。
 4. デジタルパソロジーは保険適用外である。
 5. 遠隔診断やリモートワークに活用が可能である。

体腔液・尿・その他

41. 中皮腫の特徴に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。
- A. 好中球を主体とした炎症性背景を示す。 1. A. B
 - B. 球状細胞集塊を多数認める。 2. A. E
 - C. 多核細胞の出現率が増加する。 3. B. C
 - D. N/C 比は反応性中皮細胞よりも高い。 4. C. D
 - E. 片側性に発達した微絨毛がみられる。 5. D. E
42. 中皮腫の鑑別に有用な所見に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。
- A. Calretinin が細胞膜に陽性を示す。 1. A. B
 - B. p53 蛋白が細胞質に陽性を示す。 2. A. E
 - C. Podoplanin (D2-40) が核に陽性を示す。 3. B. C
 - D. MTAP 蛋白が細胞質から消失する。 4. C. D
 - E. p16/CDKN2A ホモ接合性が欠失する。 5. D. E
43. 体腔液中に出現する胃印環細胞癌の細胞学的特徴に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。
- A. 細胞質は泡沫状や空胞状を呈する。 1. A. B
 - B. PAS 反応では、細胞質が顆粒状に陽性となる。 2. A. E
 - C. 細胞質内粘液が Berlin blue 染色陽性である。 3. B. C
 - D. Giemsa 染色で Russell 小体を認める。 4. C. D
 - E. 小型集塊状や孤立散在性に出現する。 5. D. E
44. 原発性脳脊髄腫瘍に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。
- A. 髄膜腫では、核内偽封入体がしばしばみられる。 1. A. B
 - B. Schwann 細胞腫では、背景にニューロビルを認める。 2. A. E
 - C. 膠芽腫は血管の増生に乏しい。 3. B. C
 - D. 髄芽腫では、大型の腫瘍細胞が出現することが多い。 4. C. D
 - E. 上衣腫では、血管周囲性偽ロゼットの形成がみられる。 5. D. E
45. 体腔液中に出現する悪性細胞の特徴的所見として正しい組み合わせはどれですか。
- A. 扁平上皮癌 ————— リボン状配列 1. A. B
 - B. 卵巣明細胞癌 ————— Raspberry 小体 2. A. E
 - C. 中皮腫 ————— オレンジ G 好性細胞 3. B. C
 - D. 乳癌 ————— Collagenous stroma 4. C. D
 - E. 浸潤性膵管癌 ————— Apitz 小体 5. D. E
46. 軟部腫瘍に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。
- A. 多形型横紋筋肉腫は小児に好発する。 1. A. B
 - B. 胞巣状軟部肉腫では、細胞質に PAS 反応陽性の結晶構造物を認める。 2. A. E
 - C. 滑膜肉腫は単相型と二相型に分類される。 3. B. C
 - D. 血管肉腫では、ETS 関連遺伝子 (ERG) 蛋白が細胞膜に陽性となる。 4. C. D
 - E. 粘液型脂肪肉腫は高分化型脂肪肉腫に由来する。 5. D. E
47. 脳脊髄液細胞診の目的として誤っている記述はどれですか。
- A. 髄膜炎の原因検索。 1. A. B
 - B. 悪性腫瘍の中樞神経系浸潤の有無。 2. A. E
 - C. リンパ腫の化学療法の効果判定。 3. B. C
 - D. ギラン・バレー症候群の推定。 4. C. D
 - E. 脳出血の有無。 5. D. E
48. 乳癌に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。
- A. 浸潤性小葉癌は数珠状配列が特徴である。 1. A. B
 - B. 髄様癌は異型の高度な大型腫瘍細胞が特徴である。 2. A. E
 - C. 基質産生癌は紡錘形細胞の介在が特徴である。 3. B. C
 - D. Paget 病では、微小浸潤はみられない。 4. C. D
 - E. 分泌癌は粘液小球状構造が特徴である。 5. D. E
49. 乳腺細胞診に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。
1. 粘液癌の細胞質内には粘液が充満してみられる。
 2. 非浸潤性乳管癌は筋上皮細胞がみられない。
 3. 髄様癌では、腺腔形成を示す。
 4. Paget 細胞にみられるメラニン顆粒は微細顆粒状である。
 5. 乳管過形成は非浸潤性乳管癌との鑑別を要する。

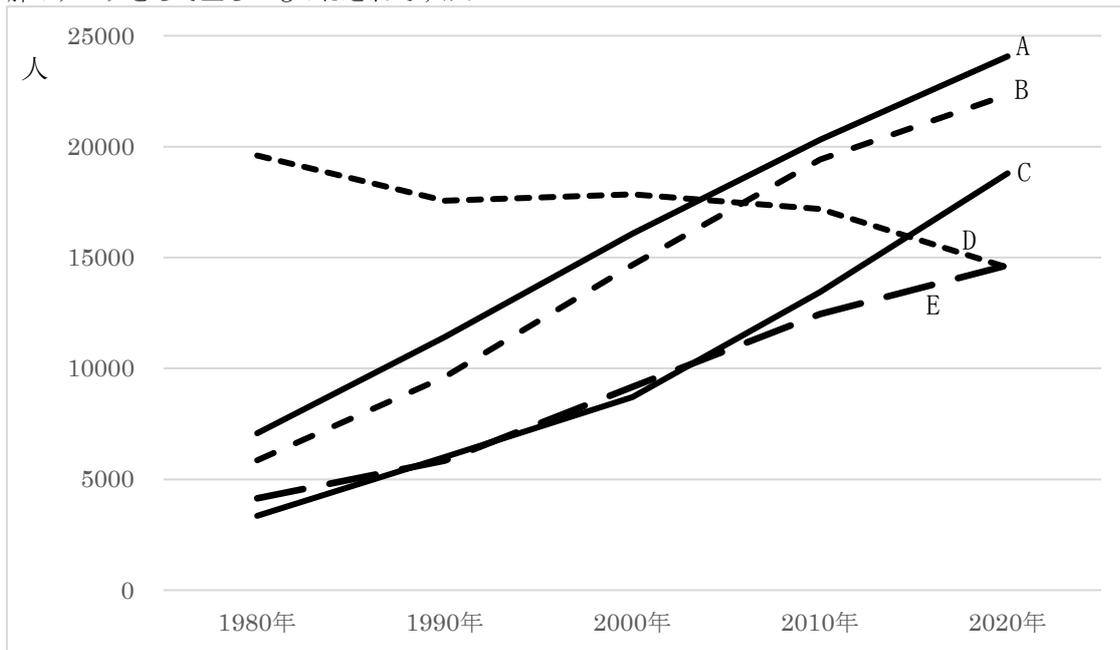
50. 良性甲状腺病変の細胞診に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。
1. 嚢胞性病変における穿刺吸引細胞診は禁忌である。
 2. 橋本病では、幼若リンパ球が単調に出現する。
 3. リーデル甲状腺炎では、核内細胞質封入体が目立つ。
 4. 亜急性甲状腺炎では、多核組織球がみられる。
 5. バセドウ病の判定に細胞診が有用である。
51. 甲状腺腫瘍に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。
1. 硝子化索状腫瘍では、細胞質内に黄色体 (Yellow body) がみられる。
 2. 硝子化索状腫瘍では、免疫組織化学で Ki-67 (MIB-1) が細胞膜に陽性を示す。
 3. 硝子化索状腫瘍では、核内細胞質封入体はみられない。
 4. 髄様癌は免疫組織化学で CEA 陽性である。
 5. 髄様癌の腫瘍細胞は類円形、紡錘形、形質細胞様など多彩である。
52. カテーテル尿の細胞所見に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。
1. カテーテルの挿入により多くの尿路上皮細胞が剥離する。
 2. 良悪に関係なく多数の細胞集塊が認められる。
 3. 良性の尿路上皮細胞集塊の辺縁には被蓋 (傘) 細胞が認められない。
 4. 結合性が良好な尿路上皮細胞集塊は悪性に比して細胞密度が低い。
 5. 癌細胞の核は変性が少なく淡染する傾向がある。
53. 泌尿器細胞診に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。
1. コメット細胞は高異型度尿路上皮癌の特徴的な所見である。
 2. 子宮頸部の扁平上皮癌細胞が自然尿中に出現することがある。
 3. 前立腺癌細胞の核クロマチンは尿路上皮癌に比べ繊細である。
 4. 尿膜管癌は膀胱頂部に好発する。
 5. 小細胞神経内分泌癌はしばしば低分化型扁平上皮癌と合併する。
54. 乳腺細胞診に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。
1. 線維腺腫の線維成分はしばしば粘液腫様である。
 2. 細胞質内小腺腔 (ICL) は浸潤性小葉癌に観察される。
 3. 乳管腺腫では、ときに異型の強いアポクリン化生をみる。
 4. 乳管内乳頭腫は浸潤性乳管癌の充実型に比べ間質成分に乏しい。
 5. 浸潤性微小乳頭癌は分泌極性が反転する。
55. 骨腫瘍に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。
1. 軟骨肉腫は骨盤に発生することが多い。
 2. 骨肉腫は原発性悪性骨腫瘍のうち最も頻度が高い。
 3. 骨肉腫では、類骨の存在が診断に有用である。
 4. Langerhans 細胞組織球症では、特徴的な核形の不整を示す。
 5. 骨巨細胞腫は予後不良である。
56. 乳腺腫瘍に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。2つ選んでください。
1. 線維腺腫は二相性が明瞭である。
 2. 線維腺腫はしばしば悪性化する。
 3. 葉状腫瘍は良性と悪性に2分される。
 4. 葉状腫瘍が転移した場合は悪性像をもつ間質成分のみからなる。
 5. 葉状腫瘍の間質成分では、軟骨や骨への分化はみられない。
57. 膀胱に発生する腫瘍に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。2つ選んでください。
1. 扁平上皮癌は住血吸虫症や慢性刺激に起因して発生する。
 2. 尿膜管遺残から発生するがんは腺癌が多い。
 3. 印環細胞癌は胃原発と同じ細胞形態を示さない。
 4. 小細胞神経内分泌癌は結合性に富んだシート状集塊で出現する。
 5. リンパ腫は T 細胞型が多く発生する。
58. リンパ腫に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。2つ選んでください。
1. 結節性リンパ球優位型ホジキンリンパ腫では、ポップコーン細胞がみられる。
 2. ホジキンリンパ腫は本邦の全リンパ腫の 5% を占める。
 3. バーキットリンパ腫は CD3 陽性である。
 4. バーキットリンパ腫では、ALK 遺伝子の転座が多い。
 5. 本邦のバーキットリンパ腫は 90% 以上が EBER-1 陽性である。
59. リンパ節病変について正しい組み合わせはどれですか。2つ選んでください。
1. 結核性リンパ節炎 ————— 三日月状核貪食組織球
 2. サルコイドーシス ————— 非壊死性類上皮細胞肉芽腫
 3. 組織球性壊死性リンパ節炎 ————— 好酸球膿瘍
 4. 猫ひっかき病 ————— ラングハンス型巨細胞
 5. 多中心性キャッスルマン病 ————— 多クローン性高γグロブリン血症

60. 甲状腺悪性腫瘍に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。2つ選んでください。
1. 乳頭癌の細胞境界は不明瞭である。
 2. 低分化癌では、採取細胞量が少ない。
 3. 未分化癌では、多角形、紡錘形など様々な細胞形態がみられる。
 4. 乳頭癌では、多核巨細胞がみられることがある。
 5. 広汎浸潤型濾胞癌では、濾胞構造が目立つ。

呼吸器

61. 気管支喘息患者の喀痰中に出現する構造物で正しいものはどれですか。
- A. 含鉄小体
 - B. 石灰化小体
 - C. コレステリン結晶
 - D. クルシュマンらせん体
 - E. シャルコー・ライデン結晶
62. 肺アスペルギルス症に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。
- A. 慢性、アレルギー性、侵襲性の3つの病型がある。
 - B. 慢性では、日和見感染が一般的である。
 - C. アレルギー性では、リンパ球が多数みられる。
 - D. *Aspergillus niger* 感染では、シュウ酸結晶がみられる。
 - E. PAS 反応や Grocott 染色で観察できる。
63. ニューモシスチス肺炎に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。
- A. 菌体に芽出がみられない。
 - B. 免疫不全状態の日和見感染で発症する。
 - C. 検体としては喀痰での検出が有用である。
 - D. Papanicolaou 染色では、菌体が散在してみられる。
 - E. 菌体は Grocott 染色や Toluidine blue 染色で確認できる。
64. 喀痰中に認められる扁平上皮癌細胞に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。
- A. 核小体は大型で1ないし2個を有する。
 - B. 核縁は円滑明瞭で肥厚を示す。
 - C. 同心円層状構造を伴う。
 - D. 壊死細胞が目立つ。
 - E. 細胞間結合が緩い。
65. 肺癌細胞診による組織型推定に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。
- A. 細胞診では、腫瘍の全体像はわからない。
 - B. 治療の観点から、小細胞癌か非小細胞癌かを鑑別することは重要である。
 - C. 遺伝子治療の観点から、腺癌か扁平上皮癌かを鑑別することは重要である。
 - D. 細胞診で異型が軽度の腺癌細胞を認めたため、推定組織型を上皮内腺癌とした。
 - E. 細胞診で腺癌細胞とともに紡錘形の癌細胞を認めたため、推定組織型を多形癌とした。
66. 高度異型扁平上皮細胞の所見として誤っているものはどれですか。
- A. 細胞質エオジン好染
 - B. 細胞質光輝性
 - C. クロマチン不均等分布
 - D. 核縁不規則肥厚
 - E. 2核形成
67. 線毛細胞以外で細気管支の主たる構成細胞として正しいものはどれですか。
1. 神経内分泌細胞
 2. 基底細胞
 3. 杯細胞
 4. Club 細胞
 5. I型肺胞上皮細胞
68. 進行肺癌症例の病理検体を用いたコンパニオン診断検査として腺癌患者、扁平上皮癌患者ともに実施される項目として正しいものはどれですか。
1. *ALK*
 2. *EGFR*
 3. *ROS1*
 4. *BRAF*
 5. PD-L1

69. 女性における肺（気管、気管支および肺）、胃、膵、大腸（結腸、直腸 S 状結腸移行部および直腸）および乳腺の悪性新生物死亡数（人）の推移を示す。（国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（厚生労働省人口動態統計）肺のデータとして正しいものはどれですか。



1. A
2. B
3. C
4. D
5. E

70. 次のうち誤っている記述はどれですか。
1. 胸腺腫は前縦隔に好発する。
 2. 神経内分泌腫瘍は前縦隔に好発する。
 3. 胚細胞腫瘍は中縦隔に好発する。
 4. リンパ腫は中縦隔に好発する。
 5. 神経原性腫瘍は後縦隔に好発する。
71. 検体処理に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。
1. 喀痰検体の擦り合わせは3回以内が望ましい。
 2. 喀痰検体は癌細胞が変性し異型が強くみえる。
 3. 病巣からのブラシ採取は素早く塗抹する。
 4. ブラシ塗抹は癌細胞が新鮮で異型が弱くみえる。
 5. 胸水検体では、遺伝子検査は不可能である。
72. 腺癌の亜型の細胞所見に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。
1. 置換型では、腫瘍細胞はシート状にみられることが多い。
 2. 篩状構造増殖は腺房型に含まれる。
 3. 乳頭型では、重積性集塊として出現する腫瘍細胞が多くみられる。
 4. 微小乳頭型では、30 から 50 個程度の腫瘍細胞からなる立体的な集塊がみられる。
 5. 印環細胞癌は充実型に属する。
73. 扁平上皮癌の擦過細胞像の特徴として誤っているものはどれですか。
1. 流れ様配列
 2. 敷石状配列
 3. 細胞相互封入
 4. 細胞集塊辺縁の毛羽立ち
 5. 細胞集塊辺縁の核の突出
74. 浸潤性粘液性腺癌の細胞学的特徴として誤っているものはどれですか。
1. 細胞質内粘液
 2. 核の切れ込み
 3. 高円柱状の細胞
 4. 不明瞭な細胞境界
 5. 大型の平面的な集塊
75. 大細胞神経内分泌癌の細胞学的特徴に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。
1. 核線がみられる。
 2. 細胞の結合性は弱い。
 3. 核小体は目立たない。
 4. ロゼット様配列を呈する。
 5. クロマチンは細顆粒状である。

76. 気管支由来の細胞に関する記述の中で正しいものはどれですか。2つ選んでください。
1. 基底細胞の形態は杯状を示す。
 2. 杯細胞の核小体は目立たない。
 3. 杯細胞の細胞質は淡好酸性である。
 4. CCP 細胞は変性した線毛円柱上皮である。
 5. 喀痰中に出現する気管支由来の扁平上皮化生細胞は大型である。
77. 小細胞癌の細胞診に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。2つ選んでください。
1. 腫瘍細胞はリンパ球より小さい。
 2. 細胞の結合性が強い。
 3. クロマチンは微細顆粒状である。
 4. 細胞質は豊富である。
 5. 背景に壊死物質を伴うことが多い。
78. II型肺胞上皮細胞に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。2つ選んでください。
1. ガス交換を行う。
 2. ムチンを分泌する。
 3. 肺胞表面の90%を占める。
 4. I型肺胞上皮細胞の前駆細胞である。
 5. サーファクタントを産生する。
79. 次のうち正しい記述はどれですか。2つ選んでください。
1. 粘表皮癌は篩状構造が特徴である。
 2. 腺様嚢胞癌は扁平上皮細胞と粘液細胞が混在する。
 3. 多形癌は巨細胞または紡錘細胞成分が10%以上である。
 4. 腺扁平上皮癌は腺癌および扁平上皮癌の成分がそれぞれ20%以上である。
 5. 癌肉腫は癌腫と異所性成分からなる肉腫が混在した腫瘍である。
80. 次のうち正しい記述はどれですか。2つ選んでください。
1. マロリー小体含有細胞は間質性肺炎でみられる。
 2. ヘモジデリンはBerlinblue染色で赤染する。
 3. アスベスト小体はPapanicolaou染色では、観察が不可能である。
 4. 肺癌では、石灰化小体はみられない。
 5. アミロイドはPapanicolaou染色でライトグリーンに好染する。

消化器

81. 好発部位について正しい組み合わせはどれですか。
- | | | | |
|------------|-------|-----|---------|
| A. 白板症 | _____ | 口腔底 | 1. A. B |
| B. エプーリス | _____ | 舌縁部 | 2. A. E |
| C. エナメル上皮腫 | _____ | 下顎骨 | 3. B. C |
| D. 口腔扁平苔癬 | _____ | 頬粘膜 | 4. C. D |
| E. 口腔扁平上皮癌 | _____ | 舌背部 | 5. D. E |
82. 粘表皮癌の細胞像に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。
1. A. B
 2. A. E
 3. B. C
 4. C. D
 5. D. E
83. 消化管間質腫瘍に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。
1. A. B
 2. A. E
 3. B. C
 4. C. D
 5. D. E
84. 腭腫瘍の細胞像に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。
1. A. B
 2. A. E
 3. B. C
 4. C. D
 5. D. E
85. 小児に好発する唾液腺腫瘍として正しいものはどれですか。
1. A. B
 2. A. E
 3. B. C
 4. C. D
 5. D. E

86. 超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診 (EUS-FNAC) の適応にならない膵病変はどれですか。
- 転移性膵腫瘍
 - 膵管内乳頭粘液性腺腫
 - 粘液性嚢胞腺腫
 - 自己免疫性膵炎
 - 充実性偽乳頭状腫瘍
1. A. B
2. A. E
3. B. C
4. C. D
5. D. E
87. 口腔細胞診に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。
- 硬口蓋は角質片が採取される。
 - 無核細胞は悪性を示唆する所見である。
 - Tzanck (ツァンク) 細胞は口腔扁平上皮癌にみられる。
 - オレンジ G 好性の小型角化細胞は悪性を示唆する所見である。
 - 深層型扁平上皮細胞が採取されていなければ検体不適正とする。
88. 次のうち誤っている記述はどれですか。
- 肝粘液嚢胞性腫瘍は男性に好発する。
 - 早期胆嚢癌の多くは黄疸を伴わない。
 - 胆管内乳頭状腫瘍は type 1 と type 2 に分類される。
 - 高異型度胆管上皮内腫瘍 (High-grade BILIN) の細胞像は N/C 比の増大がみられる。
 - 膵管・胆管合流異常は肝外胆管癌のリスクファクターになる。
89. ワルチン腫瘍の細胞像に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。
- 集塊内に肥満細胞が混在する。
 - 好酸性細胞はチモーゲン顆粒を有する。
 - 多数の成熟型リンパ球が背景に認められる。
 - 嚢胞内容液中には蛋白様物質が認められる。
 - 軽度の核異型を伴う化生性扁平上皮細胞がみられる。
90. 消化管に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。
- アメーバ虫体栄養体は PAS 反応で灰青色を示す。
 - 家族性大腸腺腫症は APC 遺伝子変異が関与する。
 - クローン病は肛門部痔瘻を合併しやすい。
 - 潰瘍性大腸炎は大腸癌の原因となる。
 - 大腸癌の組織型は管状腺癌が多い。
91. 次のうち誤っている記述はどれですか。
- 早期胃癌の定義では、リンパ節転移の有無を問わない。
 - 胃 MALT リンパ腫の多くは *Helicobacter pylori* 感染を背景として発生する。
 - 胃の分化型腺癌は幽門側に好発する。
 - 胃癌腹腔細胞診で悪性疑いの場合は CYX と判定する。
 - 印環細胞癌は核偏在性を示す。
92. 肝腫瘍に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。
- 肝芽腫では、CA125 が高値を示す。
 - 肝細胞癌では、胆汁産生がみられる。
 - 肝血管筋脂肪腫では、 α SMA が陽性となる。
 - 肝細胞腺腫のリスクファクターに経口避妊薬がある。
 - 肝原発の Fibrolamellar carcinoma は若年成人に好発する。
93. 膵臓に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。
- 漿液性嚢胞腫瘍は膵管拡張がみられる。
 - 粘液性嚢胞腫瘍は卵巣様間質がみられる。
 - 淡明細胞型腎細胞癌の転移性膵腫瘍の診断には CD10 が有用である。
 - 膵管内乳頭状粘液性腫瘍は粘液形質に基づき 3 つの亜型に分類できる。
 - 膵液中の細胞は消化酵素の影響で変性をきたしやすい。
94. 高分化型膵管癌の細胞像について誤っているものはどれですか。
- 核間距離不均等
 - 核クロマチンの粗造化
 - 核小体明瞭化
 - N/C 比の増加
 - 球状硝子体 (hyaline globule)
95. 膵上皮内腫瘍性病変 (PanIN) に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。
- 超音波内視鏡下穿刺吸引法 (EUS-FNA) での検体採取が有効である。
 - Low-grade PanIN は低乳頭状の増殖形態を示す。
 - High-grade PanIN は上皮内癌を含む。
 - High-grade PanIN では、KRAS 遺伝子変異が高頻度にみられる。
 - 顕微鏡レベルで確認される病変である。

96. 唾液腺腫瘍に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。2つ選んでください。
1. 多形腺腫は悪性化しない。
 2. 基底細胞腺腫は粘液背景を示す。
 3. 分泌癌（乳腺相似分泌癌）では、*ETV6-NTRK3* 融合遺伝子が検出される。
 4. 多形腺腫はアンドロゲン・レセプターが高率に陽性である。
 5. 唾液腺細胞診報告様式であるミラノシステムに「非腫瘍性」カテゴリーがある。
97. 肝細胞癌の細胞所見に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。2つ選んでください。
1. 高分化型は好酸性顆粒が目立つ。
 2. 高分化型は粘液空胞がみられる。
 3. 低分化型は巨細胞が目立つ。
 4. 低分化型は細胞間の接着性が強い。
 5. 低分化型は高分化型に比べ脂肪滴が目立つ。
98. 胆汁細胞診における良性胆管上皮細胞像に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。2つ選んでください。
1. 均等な核間距離
 2. 結合性の低下
 3. 核小体の明瞭化
 4. 壊死背景
 5. 核形不整
99. 充実性偽乳頭状腫瘍の診断に有用な免疫組織化学はどれですか。2つ選んでください。
1. BCL-10
 2. CD10
 3. Chromogranin A
 4. β -catenin
 5. CDX2
100. 膵神経内分泌腫瘍（NET）に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。2つ選んでください。
1. ホルモン機能性と非機能性がある。
 2. Grade は核分裂数と Ki-67 標識率で決定する。
 3. 壊死背景が特徴的である。
 4. 大型核小体が見られる。
 5. 核多形性は悪性度と関連する。

婦人科

101. 次のうち正しい組み合わせはどれですか。
- | | | |
|----------|--------|---------|
| A. 卵管 | 線毛円柱上皮 | 1. A. B |
| B. 子宮内膜 | 円柱上皮 | 2. A. E |
| C. 子宮内頸部 | 多列線毛上皮 | 3. B. C |
| D. 子宮腔部 | 線毛円柱上皮 | 4. C. D |
| E. 膣 | 単層立方上皮 | 5. D. E |
102. コルポスコピーに関する次の記述の中で正しいものはどれですか。
- | | |
|----------------------|---------|
| A. 移行帯の位置は年齢により変化する。 | 1. A. B |
| B. 移行帯と重層扁平上皮は接している。 | 2. A. E |
| C. 移行帯と多列線毛上皮は接している。 | 3. B. C |
| D. 移行帯は移行上皮に覆われている。 | 4. C. D |
| E. 移行帯には腺開口は認められない。 | 5. D. E |
103. 子宮腔部細胞診に関して月経周期と出現しやすい細胞の組み合わせで正しいものはどれですか。
- | | | |
|----------|-------|---------|
| A. 増殖期後期 | 表層細胞 | 1. A. B |
| B. 月経期 | 中層細胞 | 2. A. E |
| C. 分泌期中期 | 表層細胞 | 3. B. C |
| D. 閉経期 | 基底細胞 | 4. C. D |
| E. 妊娠期 | 傍基底細胞 | 5. D. E |
104. 次のうち正しい記述はどれですか。
- | | |
|---------------------------------|---------|
| A. 妊娠中期にエクソダスがみられる。 | 1. A. B |
| B. 脱落膜細胞は子宮内膜腺細胞が変化したものである。 | 2. A. E |
| C. 妊娠後期になると舟状細胞が増加する。 | 3. B. C |
| D. 水腫様流産では、栄養膜細胞の異常増殖は認められない。 | 4. C. D |
| E. 異所性妊娠では、子宮内膜にリアス・ステラ反応がみられる。 | 5. D. E |
105. 子宮体癌に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。
- | | |
|------------------------|---------|
| A. 主訴は過多月経が多い。 | 1. A. B |
| B. 閉経前より閉経後の発症が多い。 | 2. A. E |
| C. 類内膜癌が 25% を占める。 | 3. B. C |
| D. 明細胞癌はエストロゲン非依存性である。 | 4. C. D |
| E. 漿液性癌は予後不良因子である。 | 5. D. E |

106. ベセスダ・システムで検体不適とされるもので誤っている記述はどれですか。
- 扁平上皮細胞が少ない。 1. A. B
 - 標本が乾燥している。 2. A. E
 - 細菌により細胞に変性がみられる。 3. B. C
 - 頸管腺細胞が採取されていない。 4. C. D
 - 尿路上皮細胞が混入している。 5. D. E
107. 放射線治療による細胞像の変化について誤っているものはどれですか。
- 細胞質の多染性 1. A. B
 - 核小体の腫大 2. A. E
 - 多核化 3. B. C
 - 核周囲明庭の消失 4. C. D
 - N/C 比の上昇 5. D. E
108. 婦人科腫瘍マーカーについての組み合わせで誤っているものはどれですか。
- 扁平上皮癌 _____ SCC 1. A. B
 - 未分化胚細胞腫 _____ AFP 2. A. E
 - 卵黄嚢腫瘍 _____ LDH 3. B. C
 - 絨毛癌 _____ hCG 4. C. D
 - 漿液性癌 _____ CA125 5. D. E
109. 次のうち正しい記述はどれですか。
- 子宮、卵管、膣の上部は尿生殖洞から発生する。
 - 双角子宮はミュラー管の癒合不全によって生じる。
 - 子宮欠損の多くが卵巣欠損を合併する。
 - 重複子宮では、卵管は4本存在する。
 - 子宮奇形と泌尿器系の形態異常に関連性はない。
110. 扁平上皮内病変 (SIL) に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。
- LSIL では、コイロサイトは稀である。
 - LSIL の大部分は HSIL に移行する。
 - HSIL では、Human papillomavirus (HPV) が宿主ゲノムに組み込まれている。
 - HSIL と上皮内腺癌は併存しない。
 - HSIL は治療対象にならない。
111. 子宮絨毛性疾患に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。
- 部分胞状奇胎では、胎児成分はみられない。
 - 部分胞状奇胎と全胞状奇胎の鑑別に p57^{Kip2} 免疫組織化学が有用である。
 - 全胞状奇胎では、奇胎絨毛が子宮筋層内に侵入する。
 - 絨毛癌では、絨毛構造を示す。
 - 絨毛癌のほとんどは非妊娠性である。
112. 外陰腫瘍に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。
- 尖圭コンジローマは Human papillomavirus (HPV) 6、11 型と関係する。
 - Human papillomavirus (HPV) 感染を伴わない外陰上皮内腫瘍 (VIN) は高齢者に多い。
 - Paget 病は浸潤することが多い。
 - ボーエン様丘疹症は多中心性に病変を生じることが多い。
 - 悪性腫瘍では、扁平上皮癌が多い。
113. 疾患と治療の組み合わせで誤っているものはどれですか。
- 分葉状頸管腺過形成 (LEGH) _____ ホルモン療法
 - 子宮頸癌Ⅲ期 _____ 同時化学放射線療法 (CCRT)
 - 子宮頸癌Ⅰ期 _____ 子宮全摘出術
 - 子宮頸部高度扁平上皮内病変 _____ 円錐切除術
 - 子宮頸部上皮内腺癌 _____ 子宮全摘出術
114. 子宮体癌の危険因子として誤っているものはどれですか。
- 肥満
 - 糖尿病
 - 多嚢胞性卵巣症候群
 - タモキシフェンの服用
 - 黄体ホルモンの服用
115. 子宮平滑筋腫に関する次の記述の中で誤っているものはどれですか。
- 発生部位により症状が異なる。
 - 過多月経の原因となる。
 - 不妊の原因となる。
 - エストロゲン依存性が多い。
 - 10% 程度は悪性化する。

116. 下垂体前葉から主に分泌されるホルモンとして正しいものはどれですか。2つ選んでください。
1. ゴナドトロピン放出ホルモン
 2. 黄体化ホルモン
 3. 卵胞刺激ホルモン
 4. オキシトシン
 5. エストロゲン
117. 増殖期の子宮内膜腺細胞に関する次の記述の中で正しいものはどれですか。2つ選んでください。
1. 核分裂像がみられる。
 2. 核の偽重層化がみられる。
 3. 分泌期と比較して細胞境界は明瞭である。
 4. 粘液性背景がみられる。
 5. 平面的な集塊状に出現する。
118. 腔トリコモナス症の所見で正しいものはどれですか。2つ選んでください。
1. コイロサイト
 2. キャノンボール
 3. 洋梨状虫体
 4. クルー・セル
 5. 星雲状封入体
119. 卵巣腫瘍と細胞診所見に関して正しい組み合わせのものはどれですか。2つ選んでください
1. 明細胞癌 ————— Hobnail cell
 2. 粘液性癌 ————— Psammoma body
 3. 卵黄嚢腫瘍 ————— Schiller-Duval body
 4. 顆粒膜細胞腫 ————— Reinke crystal
 5. セルトリ細胞腫 ————— Call-Exner body
120. 胚細胞腫瘍に分類される卵巣腫瘍として正しいものはどれですか。2つ選んでください
1. 莢膜細胞腫
 2. セルトリ細胞腫
 3. 奇形腫
 4. 卵黄嚢腫瘍
 5. 明細胞癌